



動物レスキュー通信

2020年10月 第89号 (令和2年10月1日発行)

発行元

一般財団法人 国連世界動物救済支援機構 詩月財団

詩月(しづく) : 詩月財団 理事長
愛玩動物飼養管理士 一級
ペット災害危機管理士 三級

お問い合わせ : sizuku.foundation@gmail.com

大切なマナー 散歩時に気を付ける事



前はマナーとしつけについてお話しましたが、今回は散歩時のマナーについてお話ししたいと思います。新型コロナウイルスの感染拡大により、私たちの生活は一変し、今までにはなかった新たなマナーと言ったものが出来てきたと感じています。現在のマナーとして思い浮かぶことは、公共交通機関の中や店内、室内ではマスクをする事。これが思い浮かぶのではないのでしょうか。しかし育ってきた環境や現在の生活環境などによりマナーと言うものは人それぞれ違った解釈がなされますし、様々な事情で守れない方もいらっしゃると思います。お互いができるだけ快適に過ごせるように心配りをする事。これがマナーだと考えます。そこで今回はワンちゃんには毎日欠かさない散歩時のマナーについてお話していきたいと思えます。

変化してきた環境

我が子供の頃はワンちゃんの散歩の目的と言うと運動させる事と排泄をさせる事だったように思います。そのくらいワンちゃんのトイレは外でするもの。と言う感覚でした。もちろんその頃は庭などの広い敷地に犬小屋があり、番犬として外で係留されて飼育されているワンちゃんが多かったと思います。しかし現在では一戸建てでも狭い敷地であったり、集合住宅に住む家庭が多くなった事、そして小型

犬を飼う人が多くなったなどの理由、また飼い主さんのワンちゃんへの考え方が番犬、ペットと言ったものではなく親友、恋人、パートナーなど、家族の一員として、まさにコンパニオンアニマルとして認識する人が多くなり、室内飼いのワンちゃんが主流となりました。そのため、トイレも家の中で出来るようにトレーニングしている子が多いですが、今でも屋外でしか排泄できないというワンちゃんも、割近くはいるようです。だからこそ散歩時のマナーはとても大切になります。

大切な散歩時のマナー

ワンちゃんは探索欲求が非常に旺盛で、仲間と一緒に歩いたり走ったりすることに幸せを感じます。そして肉体的にも運動させることが必要です。ですから散歩は心を満たすため、身体を健康に保つためにも必要不可欠であり朝夕2回、30分程度の散歩が望ましいです。室内で排泄できるワンちゃんは、出かける前にトイレを済ませてから出発しましょう。そしてリードは必ずつけましょう。たまにノーリードでワンちゃんを散歩させている飼い主さんを見かけます。「うちの子はおとなしいし、私の言う事を絶対に聞けし、飛び掛かったりしないから大丈夫」と思われているかもしれませんが、室外には車やバイク、自転車、歩行者、他の犬、猫、鳥など、ワンちゃんの刺激になり、危険が及ぶ要因がたくさん存在します。交通事故などを起こさないために散歩中は必ずリードを付け、飼い主

さんのそばを歩かせるようにしてください。散歩の途中、ワンちゃんが落ち着かないそばりを見せ排泄しそうな場合は、その上にするように促してあげましょう。万が一、地面や電柱などに直接してしまった場合はトイレシートで尿を吸い取り、持参した水をかけて流して下さい。また、オスのワンちゃんの場合は縄張りを主張するために、いろいろなところに少量のおしっこをかけて回るマーキングをしたがるが多々あります。マーキングは生理現象の為、たとえトイレのトレーニグを完璧にこなしていたとしても防ぐことが困難な場合があります。ワンちゃんが悪いわけではありませんが、飼い主さんが困ってしまうようではワンちゃんとの良好な関係を維持することが大変になつてきますので、そんな時は「マナーベルト」の使用をおススメします。マナーベルトは生殖器の部分をベルト状の布や紙で覆うおむつのようなものです。しかしおむつではありませんので、大量の尿を吸収することはできません。あくまでもマーキング時の少量の尿を吸収し、汚してはいけないうところを守るためのものです。そして便も絶対に放置せずティッシュやトイレシートなどでくるんでビニール袋などに入れて、必ず持ち帰り、自治体のルールに従って処理してください。

リード、トイレのマナーはワンちゃんと飼い主さんの関係を良好に保つためにも非常に大切なことです。室内で排泄できるワンちゃんでも万が一に備えて散歩時にはペットシート、水、ビニール袋、ティッシュなどは必ず持って散歩に出かけるようにしましょう。ワンちゃんの散歩の際にご近所さんや同じく散歩している人たちのトラブルなどを起こさないため、ワンちゃんが嫌われないためにもマナーを守ることがとても大切です。(詩月)